

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科 目	林業施策						
概 要	我が国の森林・林業・山村施策、林業経済の概要を理解する。						
背景・目的	我が国の森林・林業・山村施策の概要及び森林整備関係の補助事業を理解し、森林整備・林業の担い手としての基礎知識を習得する。						
到達目標	森林・林業に係る行政施策の概要等を理解する。						

担当職員	★島根森林管理署 ★伊藤勝久（島根大学名誉教授）・大塚浩 ・原勇治
進 め 方	

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・日本の森林・林業・山村政策	・森林、林業、山村政策及び経済の解説
2	講義	4	・林業経済学基礎	・林業の経済的な仕組みと近年の動向
3	講義	4	・島根県の推進する循環型林業	・島根県の林業の特徴、成り立ち ・島根県農林水産基本計画の概要
4	講義	4	・造林補助制度	・森林整備事業と造林補助制度の概要
5	講義	4	・保安林・林地開発制度	・保安林制度、林地開発許可制度の概要
6	講義	4	・治山・林道事業	・治山事業、林道事業の概要
7	実習	4	・治山・林道事業	・治山事業、林道事業の施工地見学
8	講義	4	・国有林の政策と取り組み	・全国、島根県の国有林の現状 ・重点取組事項
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
		80	10	10		
摘 要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科 目	情報処理Ⅱ						
概 要	コンピュータを活用し、課題レポートや視察発表資料の作成に役立てたり、林業分野で活用するための応用力を身につける。						
背景・目的	現在文書作成にはWordのスキルが不可欠になっている。基本的な操作を学び、それを普段の生活で活用できるようにする事が目的である。						
到達目標	Wordを使って文書作成 ポスター作成ができる。						

担当職員	・森岡彰子
進 め 方	テキストを読みながら、作業を進める。分からないことは担当職員に聞き、その日の課題のノルマを達成する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	座学	4	Word①	・図表や図形を使った文書の作成
2	座学	4	Word②	・写真、画像を使った文書の作成
3	座学	4	Word③	・Excelデータの活用 総合問題
4	座学	4	Word④	・農大祭のポスターを作る
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	よくわかるWord2021応用、よくわかるExcel2021活用、よくわかるPowerPoint2021応用					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			50	10	40	
摘 要	当日の課題の達成度によって評価する					

学年	2	単位数	3	時間数	48	対象	林業
科 目	森林経営Ⅱ						
概 要	森林経営計画の基本的実務を習得し、森林組合の実例をもとに森林の集約化や施業方法、路網整備や林業経営の課題、対応策を学ぶ。						
背景・目的	県内事業体の森林経営に対する様々な考え方を知るとともに、実践されている森林経営計画・森林施業提案書について理解する。						
到達目標	森林経営計画及び森林施業提案書を作成し、林業経営の現状を理解する。						

担当職員	・西満広 ・原勇治
進 め 方	森林経営計画及び森林施業提案書を理解した後、林業事業体の林業経営を学ぶ。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林計画の基礎、森林に関する法制度	・森林計画が必要とされる理由 ・森林計画の考え方と課題 ・森林の法令上の取扱い 各種制限林（森林法・自然公園法・文化財保護法等々） 伐採及び伐採後の造林の届出 保安林・林地開発許可制度 森林の土地の所有者届出制度
2	講義	4	・森林計画制度	・森林・林業基本計画、全国森林計画、地域森林計画、市町村森林計画、森林経営管計画（各計画の趣旨や仕組みと役割） ・森林計画図、森林簿、林地台帳の見方
3	実習	8	・森林経営計画の実務 * 6	・間伐率の設定、搬出計画の作成 ・森林GIS等による情報収集と森林経営計画の作成
4	講義	8	・提案型集約化施業の意義と進め方	・提案型集約化施業の意義 ・森林施業プランナーの役割 ・森林施業提案書のイメージ
5	講義	8	・作業システムと工程管理	・作業システムとは ・生産性の考え方 ・工程管理の必要性
6	講義	8	・原価管理	・提案型集約化施業における収支構造 ・損益分岐点売上高と年間必要事業量 ・森林施業提案書作成
7	講義	8	・林業事業体の提案事例と現地視察	

テキスト (教材)	作成資料 森林施業プランナーテキスト 改訂版					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	40	40	10	10		
摘 要	* 6 : 【要領（別表2）】3（2）UAV、GNSS・GIS等を習得する研修					

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科 目	林業経理						
概 要	企業会計の基礎となっている簿記の基礎を学ぶ。						
背景・目的	森林組合や事業体等で経営・採算性等の実情を計数的にとらえる手法を学ぶ。						
到達目標	簿記の基礎を理解する。						

担当職員	★佐藤博子（飯石森林組合）
進 め 方	講義主体に行い、各時間ごとに演習問題を解き、理解度を確認する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・簿記の基礎	
2	講義	4	・貸借対照表と損益計算書	・簿記の要素・純損益の計算等
3	講義	4	・取引と勘定	・分解と勘定記入等
4	講義	4	・仕分けと転記	・仕訳帳・総勘定元帳等
5	講義	4	・取引の記帳	
6	講義	4	・試算表と精算表	・種類と作成方法
7	講義	4	・決算	・決算の意味、手続き、報告
8	講義	4	・財務諸表の作成	・総合演習
9				
10				

テキスト (教材)	「新簿記」(実教出版株式会社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			10	10	80	小テスト
摘 要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科 目	森林施業プランナー実践						
概 要	事業体経営の基礎となる、森林施業から収入を得る方策を森林施業プランナーから学ぶ。						
背景・目的	森林資源の現状を把握し、可能な生産量及び生産コストの低減、適切な採材による有利販売などについて検討し、森林経営に関する意識を高める。						
到達目標	経営意識を高めるとともに、社会人として必要な力を身につける。						

担当職員	★森林施業プランナー ・原勇治
進 め 方	森林施業プランナーに帯同し、実務講義、実習及びグループワークを中心に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	8	・事前調査	・対象林分の森林資源情報整理 ・施業内容検討 ・所有者交渉（境界確認）
2	実習	8	・実施計画作成	・作業システム検討 ・事業経費算出 ・収入見込み算出
3	実習	8	・事業進行管理	・班長との連絡調整 ・進捗状況把握 ・問題解決
4	実習	8	・事業精算管理	・事業収支計算 ・補助事業管理

テキスト (教材)						
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
		80	10	10		
摘 要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科 目	社会人基礎						
概 要	基本となる「人間関係」について、実際の試験を交えて考察する。						
背景・目的	事業体を健全に運営するためには、組織の活性化が重要である。 また、組織におけるコミュニケーション不足により、上司と部下がお互いの立場を理解することができずに、離職につながる傾向が見られる。 そこで、就職後、職場の一員として班長（上司・先輩）の立場を理解し、「教わる」ための心構えを意識付ける。						
到達目標	より良い人間関係の作り方について、自分の考えを持つ。 また、就職後、班長（上司・先輩）の立場を理解し、良好な人間関係を築くことで、定着率の向上を図る。						

担当職員	★ 園田英之（社会保険労務士） ★ 園田千恵（社会保険労務士）
進 め 方	図書を精読するとともに、演習等により考え方をシェアし合うことを基本に進める。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・ 組織における労働とは	
2	講義	4	・ 人を動かす	
3	講義	4	・ コミュニケーションスキル	
4	講義	4	・ インターンシップの振り返り ・ リーダーとは	

テキスト (教材)	マンガで読み解く「人を動かす」（単行本、D・カーネギー、創元社）、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
		80	10	10		
摘 要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科 目	森林GIS						
概 要	I C Tなどを活用した新たな森林リモートセンシング技術を「森林G I S」「森林計測」において学習するにあたって、森林G I Sでは、森林計測Ⅱにおいて計測した結果を保存・解析に必要なG I Sについての知識や技術の習得を行う。						
背景・目的	労働生産性の向上や安全性の向上に向け、地理空間情報やICT等の先端技術を森林管理や林業に活用する取組が進められており、今後飛躍する分野として活用できる人材が求められている。						
到達目標	林業事業体において最も利用されているG I SのQ G I Sで施業図を作成することができる。						

担当職員	★板持孝祐（飯石森林組合） ・大塚浩
進 め 方	講義、演習及び実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林GISの基礎 * 6	・スマート林業の概要 ・ G I Sの基礎知識（座標系、データの種類の等） ・ 林業事業体におけるG I S利用の現状
2	講義 実習	24	・ QGISの使い方 * 6	・ 背景地図取り込み、データ取り込み ・ 図形作成・編集 ・ コンパス測量データ、G N S Sデータの取込み
3	実習	4	・ QGISの利用 * 6	・ 測量、毎木調査結果の取り込み

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
		80	10	10		
摘 要	* 6 : 【要領 (別表 2)】 3 (2) U A V, G N S S・ G I S等を習得する研修					

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科 目	森林計測Ⅱ						
概 要	I C Tや最新の機器を活用した森林情報の高度化、木材生産・流通段階に於ける効率化や情報共有化に資する技術を学ぶ						
背景・目的	森林施業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産を可能にするため、地理空間情報やI C T、ロボット等の先端技術を活用した「スマート林業」の実現に向けた取組が必要とされている。I C T等の利用した先端技術のと森林管理や木材生産等への活用方法を学ぶ						
到達目標	林業・木材産業の各段階におけるI C T等の先端技術を活用した取組の概要を理解する。 森林3次元計測システムの使用手法、U A Vの安全な操作・データ活用方法を理解する。						

担当職員	★米康充（島根大学准教授） ★小林幸平（(株)ジツタ中国） ・大塚浩
進 め 方	講義及び森林等における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・新たな森林リモートセンシング技術を活用したスマート林業について * 6	・スマート林業の取り組み状況 ・林業におけるリモートセンシングの現状
2	講義 実習	28	・UAV、GNSS等を利用した測量等 * 6	・自動航行撮影、オルソ画像作成、シェープファイル作成、G I Sへのインポート

テキスト (教材)	関係資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
		80	10	10		
摘 要	* 6 : 【要領（別表2）】3（2）UAV, GNSS・GIS等を習得する研修					

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科 目	木材利用Ⅱ						
概 要	木材流通の現状を学ぶとともに、木質材料（合板、LVL、集成材、パーティクルボード等）の種類や用途、製造方法について学習する。						
背景・目的	製材以外にも合板やバイオマス発電等、木材を大量に供給する需要者があることについて理解する。また規格や品質について理解し、地域の需要に応じた仕分けができるようにする。						
到達目標	木材流通の現状について理解する。 木質材料・木質チップ等の利活用の現状及び加工方法について理解する。						

担当職員	★山形弘司（福波物産(有)） ・★伊藤賢一 ・土屋浩志			
進 め 方	講義・実習及び製材工場等の視察により行う。			
授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・木材流通の現状	・中国地方の木材流通状況について
2	講義	8	・丸太の見分け方 ・製材用丸太の木取り、軸組工法	・木材の欠点と要因 ・用途別の木取りと歩留り
3	実習	8	・丸太の仕分け ・選別と高価販売のポイント * 4	・市場での仕分け方法、選別方法 ・採材とその評価
4	講義	4	・木質材料としての利活用	・木質材料（合板・集成材・CLT・LVL等）の特徴と用途並びに製造方法
5	実習	8	・採材、検収	・採材、検収実習
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	40	40	10	10	0	
摘 要	* 4 : 【要領（別表1）】 2 、マーケットインの発想による林業経営を習得する研修					

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科 目	木造建築						
概 要	木造建築の歴史・工法・性能などの基礎知識と、実際の建築現場において木造建築の事例を学ぶ。						
背景・目的	伐採・搬出された原木が、どのように加工され、木造建築で活用されているかを理解する。 木造建築物の使用部材を知ること、保育施業の意義を再確認する。						
到達目標	木造住宅への木材の使われ方について理解する。						

担当職員	★中村正志（建築士）・土屋浩志
進 め 方	講義及び現地視察により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	木造住宅の基礎材料	・部材の名称 ・構造・造作・下地に使用する樹種
2	講義	4	木造住宅の構造と特性	・工法（在来軸組・2×4・パネル等） ・木質環境と安全性（耐熱、耐震、調湿等）
3	実習	4	住宅建築	・様々な民間戸建て木造建築現場を見学し、現代における地域材利用のあり方を考える
4	実習	4	住宅環境	・古民家を改修した住宅展示場等を見学し、伝統的な木造建築技術について学ぶ
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	0	60	20	20	0	
摘 要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科 目	林業機械Ⅱ						
概 要	コストを意識し、それぞれの現場に即した作業システムによる木材生産を学ぶ。						
背景・目的	安全を最優先にしたうえで、生産性及び生産コストの意識を高める。						
到達目標	コスト意識を高める。						

担当職員	★住田義則（中国林機(有)）・永見秀明 ・大塚浩
進 め 方	講義及び森林内における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	8	・高性能林業機械	・高性能林業機械の種類、特色等 ・生産コスト
2	見学	8	・高性能林業機械見学	・タワーヤード、フェラーバンチャザウルス等
3	講義	8	・路網と作業システム * 7	・路網と作業システムの関係性 ・作業システムの基礎知識、作業システム事例
4	講義	8	・最新の林業機械	・最新の林業機械に関する研究報告

テキスト (教材)						
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	80		10	10		
摘 要	* 7 : 【要領(別表2)】3(3)地域の主な作業システムで用いる高性能林業機械に関する技術を習得する研修					

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科 目	森林路網						
概 要	路網整備の考え方を学ぶとともに、森林作業道の路線選定や開設方法を習得する。						
背景・目的	低コスト木材生産のためには、路網整備が重要である。とともに、壊れにくい路網整備を行う必要がある。						
到達目標	路網の必要性や路網の種類などを理解し、路線選定の手順を覚えるとともに基礎的な開設方法を理解する。						

担当職員	★鹿田保生（島根県林業公社） ・ 永見秀明
進 め 方	講義、実習、見学並びに専攻実習において進める。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	8	・路網整備の基礎知識	・森林作業道作設指針等
2	講義・実習	4	・路線選定	・机上による路線選定
3	講義・実習	8	・路線選定	・現地踏査
4	実習	8	・路線計画	・路線計画の作成、FRDの活用
5	講義	4	・森林作業道の開設方法	・森林作業道の開設方法について

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
		80	10	10		
摘 要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科 目	育林技術Ⅱ						
概 要	林業生産における目標林型の設定と間伐技術について理解する。						
背景・目的	間伐の指針、選木から伐倒までの技術、作業システム、施業体系における間伐の整理を通して、目標とする森林の姿のイメージ化、長期的な森づくりのプランニングについて理解する。						
到達目標	将来の目標林型と間伐効果について理解を深める。						

担当職員	★高橋絵里奈（島根大学准教授） ・原勇治
進 め 方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・間伐とは	・間伐の基礎知識 ・間伐の進め方 ・間伐の作業技術
2	講義	4	・目標林型とその理論	・林種 ・森林の発達段階 ・目標林型の求め方
3	講義	4	・密度管理と収穫予想	・密度管理図、人工林収穫予想表の見方と活用
4	講義	4	・各地の育林施業体系と主伐-再生林に向けた取り組み ＊５	・間伐から見る各地の育林施業体系 ・再生林の低コスト化、下刈りの省力化

テキスト (教材)	「高性能林業機械による利用間伐の手引き」（島根県林業改良普及協会）、「島根県人工林収穫予想表（平成23年4月発行）」（島根県）、「間伐と目標林型を考える」（全国林業改良普及協会）					
評価基準	1. 定期試験（％）	2. レポート（％）	3. 出席（％）	4. 態度（％）	5. その他（％）	摘 要
	80		10	10		
摘 要	＊５：【要領（別表２）】３（１）コンテナ苗、低密度植栽、一貫作業システムを習得する研修					

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科 目	森林保護						
概 要	森林における病虫害獣害について、その防除方法、対処方法について学ぶ。						
背景・目的	健全な森林造成のため、病虫害獣害による森林被害について理解する。						
到達目標	代表的な病虫害獣害による森林被害の特徴及びその防除法を理解する。						

担当職員	・澤田誠吾 ・ 田川哲 ・ 坂倉健太 ・ 庄司優太 ・ 中山浩次
進 め 方	講義及び実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林病虫害の概要 ・林木の病虫害の診断と防除	・被害とは、病虫害名の判定、防除方法 ・林木の病虫害（スギ溝腐病、ヒノキ漏脂病、ナラタケ病、スギドクガ、マツカレハ、スギカミキリなど）・マツ材線虫病（松くい虫） ・ブナ科樹木萎凋病（ナラ枯れ）
2	実習	4	・松くい虫（及びナラ枯れ）被害木駆除	・松くい虫（及びナラ枯れ）被害木の診断 ・被害木の伐倒、くん蒸処理
3	講義	4	・野生鳥獣被害の診断と防除	・野生鳥獣による被害と対策 ・二ホンジカ、クマ、ウサギ、ネズミ
4	実習	4	・再造林における鳥獣対策	・現場見学（二ホンジカの被害対策）

テキスト (教材)	「狩猟読本」（大日本猟友会）、「冊子鳥獣被害診断と防除マニュアル」（島根県農林水産部）、関係資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	80		10	10		
摘 要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科 目	体育Ⅱ						
概 要	スポーツを通して、体力の向上、健康維持を図る。						
背景・目的	スポーツを通して、体力向上・健康維持を図るとともに、コミュニケーション醸成の場とする。						
到達目標	講義や実習などがスムーズに進められるように、体力向上とコミュニケーション能力を高める。						

担当職員	★外部講師 ・ 林業科スタッフ
進 め 方	体育館、運動場での実技主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	4	・体力向上・健康維持	・各種競技、ニュースポーツ等
2	実習	4	・体力向上・健康維持	・各種競技、ニュースポーツ等
3	実習	4	・体力向上・健康維持	・各種競技、ニュースポーツ等
4	実習	4	・体力向上・健康維持	・各種競技、ニュースポーツ等
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)						
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			50	50		
摘 要						

【森林技術コース】

学年	2	単位数	17	時間数	526	対象	林業
科 目	専攻実習Ⅱ						
概 要	各科目の学科等で学んだことを現地で実践する。						
背景・目的	林業技術の向上と経営能力を養う。						
到達目標	基礎的技術を身につける。						

担当職員	林業科スタッフ等
進 め 方	教室内での演習、先進地等の視察、森林等における実習で行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	24	・育苗 * 5	・種子採取、挿し穂採取、発芽試験、播種床整備、播種(まきつけ)、かん水、病虫害防除(農薬散布)、除草、寒冷紗設置、間引き、根切り、堀取り、床替え、山出し
2	実習	58	・造林・育林 * 2	・地寄せ、植栽(樹種、苗区分：裸苗・コンテナ苗)、下刈り、雪起こし、除伐、枝打ち
3	実習	64	・伐倒・造材 * 3	・VRチェンソーシミュレータ、伐倒練習機、間伐(保育・利用)、主伐(皆伐)、枝払い、玉伐り、ハーベスタVRシミュレータ、
4	実習	130	・搬出・運搬 * 3(90)、* 7(40)	・ハーベスタ、スイングヤード、フォワーダ、集材機、簡易集材機(引っ張りだこ等)
5	実習	30	・機械等メンテナンス * 1	・ソーチェン目立て、刈刃目立て、鉋研ぎ、高性能林業機械メンテナンス
6	実習	24	・ワイヤースプライス	ショートスプライス、(セミ)ロングスプライス、アイスプライス
7	実習	32	・測樹 * 6	・樹高測定(使用器具：測高棒・ブルーメライス等)、直径測定(輪尺・巻尺)、OWL、標準地調査、毎木調査、ドローン操作・データ分析、OWL計測・データ分析
8	実習	32	・測量 * 6	・周囲測量、水準測量、路線測量(作業道)、測量結果整理：手計算・図面作成、PC処理(アルク、アシスト等)
9	実習	16	・森林作業道	・路線測量、土工(ミニバックホウ)
10	実習	24	・見学・視察	・各区分毎(「種苗」、「育林」、「伐採・搬出」、「林業経営」、「特用林産物生産」、「木材加工・利用」、「林業施策」等)の見学・視察
11	学科講習	92	・資格取得(6)	・フォークリフト運転技能講習、狩猟免許 小型移動式クレーン運転技能講習、林業種苗生産事業者講習会、技能講習(玉掛等)、救命講習2

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			40	20	40	技能
摘 要	* 1 : 【要領(別表1)】(1) 林業労働安全：基本的な事項 * 2 : 【要領(別表1)】(1) 林業労働安全：造林・育林に係る研修 * 3 : 【要領(別表1)】(1) 林業労働安全：伐木・造材に係る研修(最新装置の活用) * 5 : 【要領(別表2)】3 (1) コンテナ苗、低密度植栽、一貫作業システムを習得する研修 * 6 : 【要領(別表2)】3 (2) UAV、GNSS・GIS等を習得する研修 * 7 : 【要領(別表2)】3 (3) 地域の主な作業システムで用いる高性能林業機械に関する技術を習得する研修					

【経営管理コース】

学年	2	単位数	15	時間数	494	対象	林業
科 目	専攻実習Ⅱ						
概 要	各科目の学科等で学んだことを現地で実践する。						
背景・目的	林業技術の向上と経営能力を養う。						
到達目標	基礎的技術を身につける。						

担当職員	林業科スタッフ等
進め方	教室内での演習、先進地等の視察、森林等における実習で行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	24	・育苗 * 5	・種子採取、挿し穂採取、発芽試験、播種床整備、播種(まきつけ)、かん水、病害虫防除(農薬散布)、除草、寒冷紗設置、間引き、根切り、堀取り、床替え、山出し
2	実習	58	・造林・育林 * 2	・地替え、植栽(樹種、苗区分：裸苗・コンテナ苗)、下刈り、雪起こし、除伐、枝打ち
3	実習	64	・伐倒・造材 * 3	・VRチェンソーシミュレータ、伐倒練習機、間伐(保育・利用)、主伐(皆伐)、枝払い、玉伐り、ハーベスタVRシミュレータ、
4	実習	106	・搬出・運搬 * 3(70)、* 7(36)	・ハーベスタ、スイングヤード、フォワーダ、集材機、簡易集材機(引っ張りだこ等)
5	実習	30	・機械等メンテナンス * 1	・ソーチェン目立て、刈刃目立て、鉋研ぎ、高性能林業機械メンテナンス
6	実習	16	・ワイヤースプライス	ショートスプライス、(セミ)ロングスプライス、アイススプライス
7	実習	32	・測樹 * 6	・樹高測定(使用器具：測高棒・ブルーメライス等)、直径測定(輪尺・巻尺)、OWL、標準地調査、毎木調査、ドローン操作・データ分析、OWL計測・データ分析
8	実習	32	・測量 * 6	・周囲測量、水準測量、路線測量(作業道)、測量結果整理：手計算・図面作成、PC処理(7/10、アシスト等)
9	実習	16	・森林作業道	・路線測量、土工(ミニバックホウ)
10	実習	24	・見学・視察	・各区分毎(「種苗」、「育林」、「伐採・搬出」、「林業経営」、「特用林産物生産」、「木材加工・利用」、「林業施策」等)の見学・視察
11	学科実技	92	・資格取得(6)	・フォークリフト運転技能講習、狩猟免許 小型移動式クレーン運転技能講習、林業種苗生産事業者講習会、技能講習(玉掛等)、救命講習2

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			40	20	40	技能
摘 要	* 1：【要領(別表1)】(1) 林業労働安全：基本的な事項 * 2：【要領(別表1)】(1) 林業労働安全：造林・育林に係る研修 * 3：【要領(別表1)】(1) 林業労働安全：伐木・造材に係る研修(最新装置の活用) * 5：【要領(別表2)】3(1) コンテナ苗、低密度植栽、一貫作業システムを習得する研修 * 6：【要領(別表2)】3(2) UAV、GNSS・GIS等を習得する研修 * 7：【要領(別表2)】3(3) 地域の主な作業システムで用いる高性能林業機械に関する技術を習得する研修					

学年	2	単位数	2	時間数	92	対象	林業
科 目	専攻実習Ⅱ（資格取得）						
概 要	労働安全関係の各種法令に基づく内容及び時間数とする。						
背景・目的	機械を安全に使用するための知識・技術を習得する。						
到達目標	各種機械の安全な使用方法を理解する。						

担当職員	★外部講師 ・ 林業科スタッフ
進 め 方	各種資格の講習を受講する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	学科	16	・フォークリフト運転技能講習 ※1	・フォークリフトに関する知識 ・フォークリフトの操作方法
	実技	16		・実技会場での実技講習
2	学科	8	・狩猟免許（わな）	・鳥獣保護法の概要、鳥獣の保護及び管理に関する知識、 猟具の取り扱いに関する知識、鳥獣に関する知識
3	学科	16	・小型移動式クレーン運転技能講習 ※1	・小型移動式クレーンに関する知識 及び運転に必要な力学、電気に関する知識
	実技	8		・実技会場での実技講習
4	学科	8	・林業種苗生産事業者講習会	・林業種苗に関する法令 ・ 種苗の産地及び系統、種苗の生産技術に関する事項
5	実技	4	・救命講習2 ※2	・傷病者の管理、応急手当
6	学科	8	・玉掛け技能講習 ※1	・玉掛けに必要な力学 ・ 玉掛けの方法
	実技	8		・実技会場での実技講習

テキスト (教材)						
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			50		50	資格取得
摘 要	※1 場所：中山間C、講習機関：株式会社MSTC ※2 場所：中山間C、講習機関：雲南消防署					

学年	2	単位数	2	時間数	64	対象	林業
科 目	実践型総合学習						
概 要	農林大学校で学んだ知識、技術を生かし、収穫のための調査、計画、伐木、造材等の一連の工程を実践する。 先進的な林業技術を視察し、その特徴を理解することにより、本県林業の振興につなげる。						
背景・目的	同一林分で一連の工程を実践することで、知識、林業技術の向上と経営能力を総合的に養う。 先進的・特徴的な林業技術に関する知識や技術を理解し、将来の地域林業をリードする資質を養う。						
到達目標	経営能力や安全衛生を踏まえた実践的な林業技術を総合的に習得し、収穫と生産性向上への意識を高める。 先進的・特徴的な林業技術に関する知識や技術を理解し、今後の森林管理・整備等を進めるための視野を広げる。						

担当職員	・土屋浩志 ・永見秀明
進 め 方	同一林分で調査、計画、伐木、造材等の実習を行う。 森林・林業・環境機械展示実演会視察：県外視察

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・調査、計画	・実習エリアの設定、収穫予想
2	実習	12	・測量、標準地調査、選木等 ・作業計画作成	・作業計画作成にかかる事前調査 ・簡易リスクアセスメントの実施 ・実習エリアの設定、収穫予想
3	実習	24	・伐木、造材技術と生産性の向上	・実習林での伐木、造材、検寸 ・ヒヤリハット事例の検証
4	実習	16	・視察研修	・森林・林業・環境機械展示実演会視察
5	講義	8	・視察報告（レポート作成）	・レポート作成
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)						
評価基準	1. 学習終了 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 実習態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	60	10	20	10		
摘 要						

学年	2	単位数	6	時間数	192	対象	林業
科 目	キャリア教育Ⅱ						
概 要	農林大学校で学んだ知識、技術の成果を踏まえ、林業事業体での実務を経験する。						
背景・目的	現場に即した実践的な知識や技術を経験・習得するとともに、就職先選定に活かす。						
到達目標	実践的な技術を身に付けるとともに、林業で働くイメージを明確にして就業意欲を高める。						

担当職員	・土屋浩志
進 め 方	インターンシップ：原則、自宅または寮から通って就業体験を行う

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	16	【インターンシップ】 ・就業体験学習課題設定 ・就業マナー、心構え	・研修先事業体選定、目標、課題の設定 ・仕事をするうえでのマナーと心構え
2	実習	120	【インターンシップ】 ・森林組合、林業事業体等での就業体験	・選定した事業体での就業体験 ・日報の記録
3	講義	28	【インターンシップ】 ・就業体験の振り返り、まとめ	・礼状の作成 ・体験学習内容の取りまとめ ・報告書、プレゼン資料の作成
4	講義	4	【インターンシップ】 ・就業体験状況の発表	・発表会での体験状況報告
5	実習	16	・林業事業体合同説明会	・具体的就職先の選択
6	講義	8	・就職セミナー	・就職試験に向けた面接、マナーや心構え

テキスト (教材)						
評価基準	1. 学習終了 (%)	2. 報告会 (%)	3. 報告書 (%)	4. 事業体評価 (%)	5. 訪問職員評価 (%)	摘 要
	60	10	15	10	5	
摘 要						